

学年	教科等	題材名	日時
第5学年	図画工作科	リメイク！布でつくと～もう1つの自分～（第8時）	令和8年2月6日（金）

1 本時の目標

自分や仲間の作品を見つめ直すなかで、互いの表現の意図や特徴等について感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めることができる。

2 指導過程

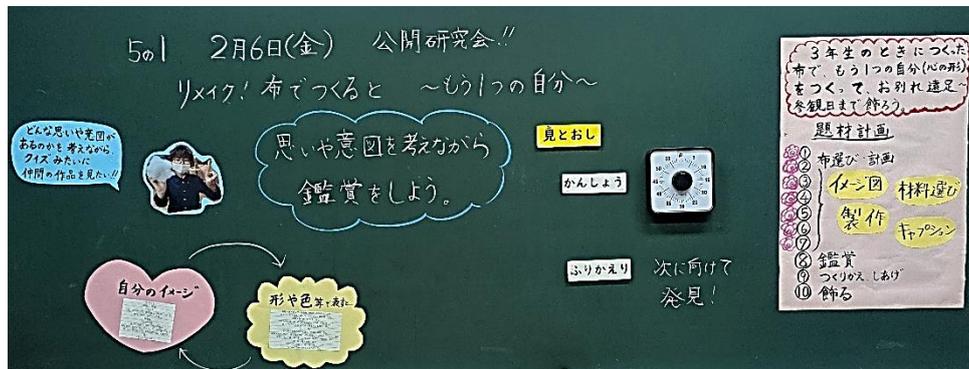
学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 製作の過程をふりかえり、本時のめあてについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 製作の過程 ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分や仲間の作品を鑑賞し、アートディレクターとして、仲間のキャプションを考えよう。</p> </div> <p>2 本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の見通し <ul style="list-style-type: none"> ・個人→グループ→全体→個人 ○ 作品を見つめ直し、キャプションを考える視点 <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のイメージ ・形や色等、造形的な視点 <p>3 前時までにつくりだしている自分の作品やキャプションを鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身のイメージ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ぼくの心の形は、山です。噴火しているのは、どんなことでも楽しめる様子を表しています。富士山みたいに、みんなを楽しませる人になりたいです。</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">【山のような形のキャプション】 【山のような形】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 形や色等、造形的な視点 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>私は、人見知りです。ちょっと寂しい感じが伝わる青や白の布を選びました。五角形がいい感じにできました。</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">【五角形のキャプション】 【五角形】</p> <p>4 仲間の作品を鑑賞し、キャプションを考える。（★）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間のイメージ <ul style="list-style-type: none"> ・「○○さんは、山登りが好きなのかな。噴火しているところは、いつも元気な感じを表しているのではないかな。」 等 ○ 形や色等、造形的な視点 <ul style="list-style-type: none"> ・「□□さんに似合う、優しい青色だね。中に綿が入っていて、柔らかい感じも素敵。リボンを付ける位置もちょうどいいね。」 等 <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">【山のような形】</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">【五角形】</p> <p>5 本時の学習をふりかえる。（★）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次時への見通し <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくは、みんなから、元気って思われているんだな。キャプションに書き加えようかな。」 ・「綿をたくさん入れたり、リボンを付けたりしてよかった。もう少し飾り付けたいな。」 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもが製作してきた様子を写真等で提示することで、製作の過程を想起し、もう1つの自分への思いを膨らますことができるようにする。 ○ アートディレクターとは、作品の方向性を考える役割であることを伝え、参考作品を例に実演したり子どもと対話したりすることで、「仲間の作品を見たい」等の思いをもつことができるようにする。 ○ どのような視点で作品を見ればよいかと尋ね、製作の過程で大切にしてきた視点を確認するとともに、子どもの言葉を掲示しておくことで、活動中に、いつでも見返すことができるようにする。 ○ 前時までには製作しているもう1つの自分やキャプションを見つめ直す時間を確保することで、必要に応じて修正することができるようにする。 ○ 自分の作品やキャプションを見つめ直すことができない子どもがいた場合、作品を見つめ直す視点に沿った形や色等を尋ねることで、製作の過程を想起し、感じていることを言語化することができるようにする。 ○ 4人程度のグループで、仲間の作品のキャプションを考える時間を設定することで、仲間の作品を鑑賞しながら、その意図や特徴について感じ取ったり考えたりすることができるようにする。 ○ キャプションに書くことが難しい子どもがいた場合には、仲間と相談してもよいことを伝えたり、キャプションを考える視点に立ち返らせたりすることで、言語化することができるようにする。 ○ グループでの鑑賞が終わったら、自分のグループ以外の仲間の作品を鑑賞する時間を設定することで、より多くの仲間とかかわり、もう1つの自分をよりよくする新たな視点に気付くことができるようにする。 ○ 仲間の作品を鑑賞したり、仲間からもらったキャプションを見たりして、これからどうしたいかと尋ね、記録する時間を設定することで、「もっと○○にしていきたい」等の思いをもち、記録できるようにする。

3 本時の評価規準

自分や仲間の作品のキャプションを考えるなかで、互いの表現の意図や特徴等について感じ取ったり考えたりし、もう1つの自分のよさを見付け、次時への見通しを記録している。

(思考・判断・表現)【行動観察・行動分析・記録分析】

4 板書等



【作品を鑑賞する子どもの姿】

5 指導講評

宮崎県教育研修センター 緒方 宏文 指導主事

- 自分なりに仲間の作品を見つめ、「○○さんは、真剣に考えて悩むところがあるから、ぼくはこのぐちゃぐちゃした感じで表したのではないかと思う。」等と、言葉を選びながら鑑賞する姿が見られた。このような姿を、日頃の授業で常に見取るのは難しい。研究授業等の機会を生かし、複数の視点で1人でも多くの子どもの思いを見取り、子ども理解を深めていくことが大切である。
- 言葉かけについては、言葉かけによって表出した姿なのか、それ以外が要因なのかを整理する必要がある。撮影した映像等を丁寧に分析してほしい。
- 図画工作科学習においては、材料が欠かせない。材料を事前に準備するのか、偶然出合った材料を生かすのか、子どもの実態に合った方法を、今後も模索してほしい。その際、題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にすることが大切である。
- 共通事項を大切にしてほしい。言葉かけにもつながるが、教師が意識して言語化していくことで、子どもにも自然と浸透していくだろう。
- 言葉かけは、評価にもかかわる。1単位時間のなかで、全員を評価し、言葉かけをしていくことは難しいだろう。題材全体、1年間を見通して、一人一人丁寧に言葉かけをしながら、評価につなげていけるとよい。
- 学習指導要領の改訂に向けた「論点整理(素案)」のなかに、「『好き』を育み、『得意』を伸ばす」という文言がある。これは、まさに図画工作科が担える部分ではないか考える。図画工作科学習の強みは、何かをつくったり表したりするなどといった創造的な活動ができる点や、感性を育める点であると考え。子どもは、今回の授業のなかで、他教科で身に付けた力も自然と発揮していた。今後は、図画工作科だからこそできることを確立したうえで、他教科との連携を図るなどして、図画工作科学習の重要性を広めてほしい。

6 考察

【研究内容1:「自分にとって新しいものやことをつくりだしていく」ための働きかけの工夫】

① 間接的に働きかける学習環境の工夫

- 本題材は、題材構成を工夫し、本時を意図的な中間鑑賞の時間として設定した。第7時までには、ある程度製作を進めていたため、自分の思いが明確になっており、仲間からの見方や感じ方等と比較しながら仲間と対話し、「自分にとって新しいものやことをつくりだしていく」姿につながった。次時、作品やキャプションの再構成をする時間を設定しているため、仲間との対話を想起し、作品等をよりよくする姿が期待できる。

② 子どもに直接働きかける言葉かけの工夫

- 子どもは、作品の造形的な特徴を基に、互いの表現の意図や特徴を感じ取ったり考えたりしながら、仲間と対話していた。これは、題材や本時の導入において、形や色等といった造形的な視点で作品を見るよう促したからだと考える。子ども同士で、自分や仲間の作品のよさ等を見付けていく姿が見られたため、教師は見守るようにした。今後は、子どもがより一層造形的な見方・考え方を働かせることができるようにしたい。そのために、子どもが対話している際であっても、タイミングよく共感したり、造形的な特徴を理解していることを自覚させたりすることができるような言葉かけもしていけるとよい。そうすることで、「自分にとって新しいものやことをつくりだしていく」姿の表出につながるのではないかと考える。